

～ 角大師(慈恵大師良源)の編 ～

今は昔、平安の都城を見下ろす比叡山に、良源という一人のイケメン僧侶がいた。が、ただ美男というわけではなく、当時、総合大学と言われた延暦寺で、早くから俊才の誉れ高く、博学の上に弁舌も巧みだった。

今では日本仏教の母山と称される天台宗比叡山も、初期の頃は東大寺、興福寺といった奈良の諸大寺の風下に立たざるを得なかった。しかし良源の登場によって天台は、奈良仏教と互角に対峙し、やがてそれを凌ぐこととなる。

そのきっかけとなったのが、963年に行われた「応和の宗論」と言われる国家主催の大弁論大会である。奈良を代表する名僧高僧と、比叡山の僧侶それぞれ10人が宮廷で仏教に関する大問答を行い、この時の良源の活躍で比叡山は奈



慈恵大師が春夏秋冬に法華経の講義を行った比叡山延暦寺の「四季講堂」

良をギャフンと言わせ、天台の揺るぎなき基盤が確立されたと言う。彼こそ、比叡山中興の祖、そして骨寺村ゆかりの第18代天台座主慈恵大師その人である。

天台系の寺院では、魔除けの護符として、慈恵大師の異形の姿を写したお札を出している。「角大師」と呼ばれ、親しみと畏怖の相混じった感情を見る者に抱かせる奇妙な姿で知られる。とにかく奇怪な姿である。イケメンのはずなのに・・・その由来はというと?

彼がその験力により宮中に入りにしていると、当時のキャリアウーマンである女官がほっておかない。なんだかんだといって言い寄って来る。「これでは仕事にも修行にもならない」と、女性の前で突如、絵のような姿に変身しびっくりさせた、というのが一説。また疫病の流行を鎮め、厄を退散させた時に変身した姿とも。

永い間日本人は、超マンパワーの人を神仏の化身であると心から思っていた。平安時代のスーパーマン良源は、傑出した才能から、

何でも現世における願いをかなえてくれる観音様の生まれ変わりという評判となった。

いまや日本中の神社仏閣で出すおみくじ。その元祖は慈恵大師と言われる。おみくじが観音様の前で吉凶を占う観音籤から発生したことから、おみくじの元祖に仮託されたのだろう。

やがて魔除け・除災のセキユリティー装置として、比叡山はじめ各地に、どんどん慈恵大師像が作られるようになる。

ところで、比叡山といえばその守り神は山王様。それで比叡山のあちこちで、堂内に山王様と慈恵大師の両方を祀り、ダブル守り神とするようになった。

骨寺村荘園でも、村の東西に慈恵大師と山王様の両方が祀られているのも、それに符号する。

(荘園室・C)



角大師のお札